JMA 登山月報 第559号 平成27年10月15日発行
昭和45年12月12日第三種郵便物認可（毎月一回15日発行）

登山月報

スポーツクライミング、五輪追加種目に推薦…… 2
クライミングユース強化合宿 2015 報告…… 3
UIAA Internatinal Youth Expedition DAMAVAND 5671m 報告書 … 4
第 83 回 Mountain World …… 7
新連載「山の日」制定記念 ―ふるさとの山に登ろう― …… 8
平成 27 年度中高年安全登山指導者講習会（東部地区）開催 …… 9
平成 27 年度全国高等学校総合体育大会登山大会報告 …… 11
第 39 回自然保護委員総会報告 …… 12
ＪＭＡ、寄贈図書、編集後記…… 13

No.559

スポーツクライミング、五輪追加種目に推薦

2020東京五輪組織委員会の追加種目検討会議と理事会が９月28日、東京・虎ノ門ヒルズで行われ、スポーツクライミング、野球・ソフトボール、空手、ローラースポーツのスケートボード、サーフィンの５競技18種目（選手総数474人）を国際オリンピック委員会（ＩＯＣ）に提案することを決めた。ボウリング、スカッシュ、武術太極拳の３競技は落選した。組織委員会では９月30日までにＩＯＣに選考結果を提案。ＩＯＣは理事会承認を経て来年８月のＩＯＣ総会（リオデジャネイロ）で正式に決定する。

追加種目検討会議には御手洗冨士夫（経団連名誉会長）座長ら７人の委員と３人のオブザーバーが出席。最終候補に残った８競技について検討した。検討に当たっては３つの主要原則、①若者へのアピール②国民機運の向上③公正で開かれた選考プロセスを重視し、その上で計画やコストなどについて考査した。

事前の予想通り野球・ソフトボールは「日本の国民的スポーツ」であること、空手も「日本発祥で世界各地に広まった競技」ということで、②の国民機運が向上するという評価が高く、すんなりと決まった。

一方でスポーツクライミングは「アウトドアブームの代表格。これまでの五輪競技にはなかった垂直方向に登るアスリートの力を競うという特徴がユニークな新しい価値をもたらす」、スケートボードは「ストリートスポーツの代表格として抜群の若者へのアピール力」、サーフィンは「マリンスポーツの代表格」ということが評価。何れも①の若者へのアピールに該当するもので、この５競技のパッケージが「東京五輪大会に最も大きな付加価値をもたらすベストな組み合わせ」（御手洗座長）ということで一致し、理事会でも承認された。種目の内容やチーム・選手数などはＩＯＣが事前に示した500人の上限に基づき当初の提案から変更され、最終的に５競技18種目で474人の提案となった。

ＩＯＣに提案されるスポーツクライミング競技は、メダルの数（種目）は男子・女子各１の計２。競技の内容は、リード、ボルダリング、スピードの３種目複合。選手数は、男子・女子各20人の計40人。出場選手は、リード、ボルダリング、スピードの３種目を行い、順位は３つの合計ポイントで確定すると思われる。

IFSC OFFICIAL PRESS RELEASE

スポーツクライミング・ＩＦＳＣは 2020東京五輪の切符を手に！

2020東京五輪への追加種目８候補の１つに選ばれていたスポーツクライミングは、今年の８月７日から８日にかけて、2020東京五輪組織委員会によるヒアリングとプレゼントを行いました。そして本日、スポーツクライミングの新しい時代が始まりました。2020東京五輪への追加種目としてＩＯＣに推薦されことが組織委員会から公式に発表されたのです。

その名誉と承認

「選ばれたことは大変光栄なことです。2020東京五輪組織委員会に対して、この素晴らしい機会と、オリンピック・ムーブメントへの参加承認を下さったことに大変感謝しています。勿論、この先も長い路となるでしょうが、我々ＩＦＳＣは全員がこの挑戦へコミットをしています。この競技の選手達、加盟各国競技団体と一緒に我々は新しい高みに到達しようとしています。」 ―ＩＦＳＣ会長マルコ・スコラリス―

これは、ここ数年のスポーツクライミングの途方もない成長が認められたことでもあります。世界で2013年におおよそ2500万人を数えたクライマーは2015年には3500万人となり、その約半数は25歳未満です。我々はこの都市型アクションスポーツの最新のトレンドに感謝しています。

オリンピックの価値の完璧な反映

８月７日から８日にかけて、ＩＦＳＣから５名、ＪＭＡから２名が2020東京五輪組織委員会に対して、日本でのクライミングの人気の高さ、ユース世代へのア

ピールなど、スポーツクライミングの価値及び、このスポーツがいかにオリンピック・ムーブメントを具現化しているかを完璧に伝えました。

スポーツクライミング楽しむことはどこでもできます。世界規模のスポーツです。その愛好者は多くの国々に存在しています。若い世代向けのスポーツであり、人気があるだけでなく、体力の向上や、柔軟性の向上、情報分析力の向上などに効果的であることが知られています。競技スポーツとしては、競技は（壁を擁する）素晴らしい会場で行われ、その息をのむ展開により観客には情熱が伝わります。そして、最後に付け加えたいのは、クライミング即ち登るという運動は、これまでの五輪競技にはありませんでしたが、人類のもつ基本的な運動であるということです。スポーツクライミングは世界最大・最高のスポーツイベントにこの欠けている垂直方向の世界観をもたらせると考えます。

日本のスポーツクライミングの明るい未来

日本ではここ数年来クライミング・ジムが著しく発展してきました。日本はそれによりクライミング・コミュニティの生の鼓動を育み、結果として何名もの世界レベルの日本代表選手（ユースも含む）を輩出しています。

「これまで以上に、我々はスポーツクライミングが、2020東京五輪の完璧な構成要素の１つとなることを確信しているとともに、国内50万人のクライミング愛好者と全ての観戦者が、このスポーツの真の姿を目の当たりにすることになると考えています。」

―― 日本山岳協会会長　八木原圀明 ――

次のステップを

ＩＦＳＣは次のステップへ向けて引続き全力で取り組みます。それは2016年８月のリオで開かれる第129回ＩＯＣ総会です。それまで、ＩＦＳＣはその選手と加盟ＮＦとともに、この選択が正しいものであることを証明するために組織を補強、改善して取り組んでいきたいたいと思います。

クライミングユース強化合宿2015報告

本年１月４日（日）から７日（水）まで静岡県浜松市でユースの強化合宿が開催された。

16歳（1998年生まれ）から12歳（2002年生まれ）までの選手、男女19人とスタッフ８名が、スクエアクライミングセンター（リード中心）とクライミングＪＭＡ２（ボルダリング）の２つのクライミングジム店舗を利用しての実戦練習と、宿舎会議室での机上講習を行った。

今回、スロベニアから国際ルートセッターとして数々の国際大会のチーフ・ルートセッターを務めてきたアリオッシャ・ギョーム氏（41歳）を招いて、選手が実際に国際大会で出会うルートでの講習と、スロベニアのクライミングの歴史と等の講習をしてもらった。（公財）日本アンチ・ドーピング機構から講師を招いての講習もあり、充実した３泊４日の合宿であった。19名の選手のうち派遣年齢に達していたのは15名。うち９名が世界ユース・アルコ大会に出場した。尚、この合宿はスポーツ振興基金からの助成金を受けて実施している。

（記　中川　裕）

スポーツ振興基金助成事業
独立行政法人日本スポーツ振興センター

UIAA Internatinal Youth Expedition DAMAVAND 5671m

報告書

平成27年7月21日（月）～31日（金）にかけて国際山岳連盟（ＵＩＡＡ）ユース登山隊のダマヴァンド（５，671ｍ）登山が、イラン登山・スポーツクライミング連盟（ＩＲＩＭ）の主管で行われた。以下はその報告である。

７月21日（火）　ホテルに到着、受付、天気：快晴

18時タクシーにてＩＲＩＭの本部があるテヘラン北部のHotel Academyに到着。すでに到着していた他の参加者と軽い自己紹介などを済ませる。夕食後、後から到着した参加者と顔合わせをする。９時よりイベントの受付を行う。自分と同年代の参加者ばかりでなく、中学生、中高年の参加者も多数見られた。最年少は13歳、最年長は49歳である。出身国はインド、オランダ、イングランド、オーストリア、スコットランドなど様々。マフムド氏より一通りの説明を受けた後、翌日の打ち合わせを行い、その後解散。

７月22日（水）　Tochal Peakを目指す。標高2500mまで登高。（高度順応）行動時間３：45　天気：快晴

５時起床。朝食後、出発まで各自出発準備を行う。７時半出発。８時登山口到着。ガイドの到着を待ち、その間、行動食の受け取りを済ませる。ガイド到着後、軽い説明を受けて出発。最初は、商店が並ぶ道を進んでいく。１時間ほどで本格的に登山開始。登山道はしっかりしており非常に歩きやすい。全体的に緑は少なく、乾燥している。30分ほどで眺望のよい場所があったため小休憩をとり、各自写真撮影などを行う。この後から岩場が多くなり、途中、ロープの設置された場所がいくつかあった。石の階段などもあり、登山道の整備はきちんとなされていた。木の生い茂る場所で一本とる。すぐ近くに川があり、水は非常にきれいだった。傾斜は多少きつくなるが、体力的には問題なし。途中、沢が何本か流れているのが見える。12時半ごろ、湧水が流れている場所で何人かが水分補給をする。その後は、階段状の道がいくらか続き、12時45分2500ｍ付近の小屋に到着。石造りの非常に立派な小屋である。近くには滝が流れていた。到着後はすぐに各自個装整理をすませ、昼食をとる。昼食後はフリータイム。滝を見に行く者、写真撮影に行く者、睡眠をとる者、皆様々だった。20時から夕食。明日に備えしっかりと栄養をとる。小屋の外に出るとテヘランの素晴らしい夜景を見ることができた。

７月23日（木）　Tochal Peakを目指す。標高3900mまで登高し、その後下山。（高度順応）行動時間４：50　天気：快晴

４時半起床。薄いナンやコーヒーなどの軽食をとる。６時10分出発。ゆるやかなザレ場の道ををかなりゆっくりとしたペースで進んでいく。テヘランの町が一望できる場所で一本。300ｍｌのペットボトルを一本消費する。登るにつれて高山植物が多数見られるようになる。避難小屋のような場所で一本。参加者間での体力差が顕著に表れ、後続が遅れ始める。10時休憩。うっすらとだがダマヴァンド山が見えた。10時10分出発。20分ほどで3900ｍのTochal Peakの山頂に到着。自分たちの団体以外に山岳救助隊や他の登山客が多数。意外にも女性の登山客が多かったのが驚きであった。遠くにあるダマヴァンドも見ることができた。全員で集合写真を撮り、撮影後下山開始。30分ほどで一気にテレキャビン乗り場に下る。その後、13時にバスに乗り、宿泊所に向かう。15時宿泊所に到着。正面にダマヴァンドがそびえ立つ。その後、各自フリータイム。休息をとるものが多かった。

７月24日（金）　宿泊所にて、本イベントの開会式を行う。式後、車に乗って、C1に移動（3100m）

７時半起床。薄いナン、茹で卵、ケーキ、コーヒーといった軽食をとる。朝食後、個装整理などを行う。10時10分より地元のガイドと共に近くの町に散策に出掛ける。商店では果物を買うものが多かった。散策後、この日から参加する他の参加者も集まり、12時より、イベントの開会式を行う。その後、高所順応法の講義を受ける。パワポを使っての講義であったため、リスニングに不安を感じる自分にとっても非常に分かりやすいものだった。13時25分よりランチ。新しい参加者たちとコミュニケーションをとる。出身国はドイツ、

スロベニアなど。昼食後の講義終了後、出発準備を済ませ、17時25分Ｃ１に向けて、車で出発。道中、羊の群れに出くわす。18時Ｃ１到着。到着後、すぐに個装整理を行う。19時半より夕食。チキンやレーズンの入ったチェロウを食べる。

７月25日（土）C2を目指す(4200m)。行動時間３：00 天気：快晴

７時起床。起床後すぐに個装整理を済ませる。朝食後、ＳＰＯ２を計測。ＳＰＯ２が96％、心拍数が65であった。出発までの時間、他の参加者と参加者と写真を撮るなどして楽しむ。９時20分出発。非常にゆっくりとしたペースで進む。11時ごろに後続のパーティと合流し、全体で30～40人ほどのパーティに。湖が遠くに見える。13時15分4200ｍ付近の小屋に到着。小屋は石造りで非常に頑丈なものだった。その後は夕食までフリータイム。他の参加者たちと共にロープワークの講習をしたり、岩登りをしたりして楽しく過ごす。18時より夕食。フライドチキンなど栄養のあるものをしっかりととる。夕食後は参加者とそり滑りを楽しんだり、雑談をする。

７月26日（日）　高度順応日、4700mまで登り、その後停滞日。行動時間４：10 天気：快晴

８時起床。朝食は軽いもので済ませる。10時出発。最初はゆるやかな斜面をゆっくりとしたペースで進んでいく。特に息苦しさを感じることもなかった。イランの旗が刺さっている場所で一本。傾斜は急激にキツくなるものの、体力的には非常に楽だった。その後、4700ｍ付近に到着。すぐに下山を開始する。14時10分小屋に戻る。15時20分より、自分を含めた青少年の表彰式を行う。ＴシャツとＵＩＡＡのピンバッジを頂いた。その後、フリータイムとなり、翌日のためにしっかりと休息をとった。20時20分より夕食。トマトスープのおじややナンを食べる。一日を通して、高山による影響は全くなく、体調も問題なかった。

７月27日（月）　山頂アタック日。閉会式。行動時間８：15 天気：快晴

４時起床。すぐに出発準備を済ませる。５時出発。星空がとても美しい。お腹に若干の違和感を覚えるが特に問題なし。気温は肌寒い程度。前日と同じ道を進んでいく。最初は非常にゆるやか。１時間ごとに10分の休憩をとりながら進んでいく。最初の一本後からは急激に傾斜がキツくなる。しかし、ペースは非常にゆっくりとしていて体力的に問題なし。その後は順調に進んでいく。山頂まで約一時間というところで行動食をとったときに違和感を感じる。お腹が食べ物を受

け付けず嘔吐する。頭痛を感じることはなく、以前にも似た症状に何度もなったことがある経験から高山病ではなく、風邪の菌がお腹に入るタイプの風邪と判断。極力固形物の摂取を控える。しかし、この症状が行動に支障をきたすことはなく、コースタイムより30～40分ほど早く、10時20分無事ダマヴァンドの山頂に登頂する。皆に温かく迎えられ、喜びをかみしめる。その後、全員で集合写真をとり、10時40分ごろには下山開始。下山は非常にスムーズで１時間に一回10分ほど休憩を取りつつ、スムーズに下山。13時15分小屋に到着。小屋到着後は大事をとって軽い昼食を食べ、長い時間睡眠をとる。夕食時、全員で無事にダマヴァンドに登頂できたことを祝って表彰式が行われた。全員にダマヴァンドＴシャツがプレゼントされ、それを着て全員で集合写真を撮った。

７月28日（火）　下山日。下山後、フリータイム。行動時間２：45 天気：快晴

８時起床。体調は完全に回復。朝食後、参加者のBaberとマフムド氏より挨拶。その後出発準備をすませ、参加者同士写真を撮ったりするなどして、出発前の時間を過ごす。９時半出発。１時間に10分ほど休憩をとりながらスムーズに下山していく。到着まで１時間ほどのところで30名ほどの団体客と出くわす。12時15分にＣ１に到着。荷下ろしするロバの到着を待つ。ロバ到着後、すぐに車で移動開始。13時35分宿泊所に到着。

昼食後、参加者何人かと町に遊びに出掛ける。商店で飲み物や食べ物を購入。帰りはトラックの荷台に乗せてもらった。宿泊所到着後、売店で地形図が売っていることに気づき、即購入。２枚で日本円にして300円、驚きの安さだった。その後協力してもらったガイドやカメラマン数名と別れる。ソマリアから来た人たちと出会ったが何をしに来たかはわからなかった。16時に車で温泉に行くことに。温泉は酸性の温泉で気持

ちよかった。ノンアルコールのイスラミックワインも飲ませてもらったが、ブドウジュースに近かった。温泉を楽しんだ後は近くの町でアイスをごちそうになった。その後、宿泊所に戻り20時から夕食。参加者、ガイド全員で過ごす最後の晩餐ということもあって非常に盛り上がった。その後もサッカーやナイトウォークなどをして楽しんだ。

７月29日（水）　イベント最終日。車でテヘランに移動。講演会。行動時間０ 天気：快晴

８時起床。朝食後はフリータイムと準備時間。すぐに出発準備を済ませて、自由時間を楽しむ。ダマヴァンドＴシャツを購入しようとしたところ、マフムド氏よりプレゼントとして頂いた。非常にありがたかった。出発までは皆サッカーなどをして楽しんだ。10時50分バス出発。バス内ではノリのいい曲をかけるなどしてたいへん盛り上がった。何人かのガイドが途中で降りたが、お別れといこうことではないようだった。13時Hotel Academyに到着。16時半からミーティングと伝えられ、昼食をとり、その後は休憩をした。16時半タクシーで、イランの外務省に移動。ミーティングはクシストフ・ヴィエリツキ氏の講演会とマフムド氏の冬季ナンガ・パルバットの登頂の表彰と自分たちの表彰を兼ねたものだった。ソマリアから来た人たちはこれの招待客だったようだ。8000ｍ峰14座の５番目の完全登頂、冬季エベレスト初登頂などなど素晴らしい功績を残したクシストフ氏の話を聞けたことは自分自身ためになることが多かった。そんな偉大な方と一緒に山に登っていたことにこの日初めて気づき、少し残念ではあった。お二方の講演、表彰が終わった後は自分たちの表彰に。表彰状と登頂証明書とフォトブックを頂いた。講演会後、お世話になった方々と写真撮影をする。そして、その後解散。解散後、参加者はタクシーでホテルに戻った。

７月30日（木）　参加者とテヘラン観光。空港まで乗り合いタクシーで向かう

７月31日（金）　イマーム国際空港（11:55発）（カタール航空Flight:QR489）、ハマド国際空港（12:30）着→乗り換え（1:50発カタール航空Flight:QR806）、成田空港（17:55着）→帰宅

今回の海外遠征は自分にとって、初海外、初高所登山といった初めての経験ばかりであった。出発前の準備に関しても苦労することが多かった。しかし、拙い英語ではあるものの他国の登山者たちともコミュニケーションをとることが出来、無事にダマヴァンドの山頂を参加者全員で踏めたことは非常に喜ばしいことである。また、高所順応法の講義と実践でマフムド・ハシェミ氏やクシストフ・ヴィエリツキ氏といった超一流の登山家たちと出会い、共に登ったという経験は自分自身の人生の財産になるといえる。さらに帰国後においても参加者同士のつながりが続くこともうれしく感じる。今遠征は、単に高所登山を経験したというよりは、多くの人との出会いに価値があることを実感した。今後、部の活動においても積極的に海外遠征を行っていきたいと十分に思える充実した内容であった。

（記　法政大学ワンダーフォーゲル部　鈴木将太）

ニュージーランド北島のダイナミックな自然を満喫
北島の名峰ルアペフ山、タラナキ山登頂と
トンガリロ・クロッシング ９日間
発着地 東京　旅行代金 ¥596,000～¥612,000
出発日 12/28(月)・1/23(土)・2/6(土)・3/18(金)
※燃油サーチャージは、旅行代金に含まれています。
旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号／日本旅行業協会正会員／ボンド保証会員
アルパインツアーサービス株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第７東洋海事ビル４階 ☎03-3503-1911
大阪☎06-6444-3033　名古屋☎052-581-3211　福岡☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com　http://www.alpine-tour.com

登山者の安心安全を守る！
画期的アイテム新登場
ブザー付ＧＰＳ搭載端末
みんなの安心安全を守る
みまもり犬まもる
位置が分かる
▶ 遭難や事故時に救難メール
▶ 家族にワンプッシュ安否報告
▶ いつでもリアルタイム検索
▶ あとから足取り確認
HELP!
株式会社ドンデ
03-6326-0407
support@donde.jp
詳しくはWEBで
http://mamoru.donde.jp/

第83回 Mountain World

アレクサンドル・ルチキンの遭難

池田常道

ロシアのビッグウォール・クライマーとして名を馳せたアレクサンドル・ルチキン（52）が、ペルーのワンドイ南峰南壁で新ルート挑戦中に墜死した。

８月初めにペルー入りしたルチキンは、ヴィヤチェスラフ・イワノフと20日から登りはじめ、基部の氷河でビバーク。翌日、壁の右手を構成するミックスの側稜を６ピッチ登ってハンモックで窮屈なビバーク。３日目は３ピッチしか稼げず5552ｍでビバーク。23日に20ｍ登るが、イワノフが３回の墜落を喫した末に行き詰って同じ場所まで戻った。24日にはさらに30ｍ登ってロープをフィックス。25日に60ｍまで伸ばして小さな雪洞を掘った。最後の交信となった27日には、前日５時間かけて75ｍを稼いだものの「ボルトやスカイフックがなければ越えられない障壁」に遭遇して再び敗退したと伝えてきた。おそらく、このあと断念して下降する途中で事故が起こったのであろう。ペルーの捜索隊が９月２日、基部の氷河5300ｍ地点で二人の遺体を発見した。

ブランカ山群にあるこの壁は高さ800ｍ。アンデス屈指の難壁として評判を呼び、1960年代末から70年代にかけて初登攀争いが繰り広げられた。最初に手を付けたのは68年ドン・ウィランスの英国隊、翌年はクロード・デックのフランス隊が続いた。さらに74年英国、75年イタリア各隊が敗退した後を受けて初登攀に成功したのは、柿本育夫隊長の岡山クライマースクラブ隊だった。一行は、初めての海外遠征でワンドイを初めチャクララフ東峰南壁、イェルパハ北西壁にも成功した。同年、イタリア隊（レナート・カーザロット他）とフランス隊（ルネ・デメゾン他）が別ルートから南壁に成功したが、その後久しく新ルートを目ざす試みは行われてこなかった。

ルチキンは1996年に、アレクサンドル・オディンツォフとパミーロ・アライのアク・スウ（5217ｍ）北壁に新ルートを拓き、彼の主唱する「ロシアン・ビッグウォール・プロジェクト」の一員となった。世界の大岩壁にロシア・ルートを刻もうという壮大な計画で、その第一弾は95年、パミーロ・アライの4810ｍ峰西壁だった。以後97年ノルウェーのトロール・ウォール、98年インドのバギラティⅢ峰（6454ｍ）西壁、99年グレート・トランゴ（6286ｍ）北西壁と続くが、ルチキンが参加した2000年、01年のカラコルム・ラトックⅢ峰（6949ｍ）西壁は失敗に終わる。ルチキンは02年バフィン島グレートセイル・ピーク（1617ｍ）北西壁と04年ジャヌー（7710ｍ）北壁に成功したが、06年のマッシャブルム（7821ｍ）北東壁はあえなく敗退。07年のキジル・アスケル（5842ｍ）南東壁に成功したものの、３度目の挑戦で完登した2011年のラトックⅢ峰には加わらなかった。ロシア流の固定ロープ遠征とは袂を分かち、困難な壁をアルパイン・スタイルで登る路線に転換したのである。

キジル・アスケルの半年後にパタゴニアのパイネ中央岩塔、翌年にはセロ・トーレに出かけ、2009年４月にはジャヌー北壁の一員だったミハイル・ミハイロフと中国・ミニヤコンカ山群に向かった。マウント・エドガー（Ｅコンカ、6518ｍ）東壁を狙ったものだったが、悪天候のためルートが見つからず、6134ｍ峰の南ピラーを５日間で初登攀、カルト・ブランシュ（1100ｍ、６ｂ～６ｃ、Ａ２）とした（岳人09年８月号）。このときエドガー東壁は未踏で、彼らから少し遅れて入山したアメリカ隊は３人全員がアプローチガリーで雪崩に呑まれている。その２年後の５月には同じくミハイロフと東部グリーンランドへ行き、レンランドにある岩峰シャーク・トゥース（1555ｍ）に北陵から初登頂した（岳人11年10月号）。13年秋にはネパールでクスム・カングル（6367ｍ）南西壁に新ルート「虚空への墜落」を拓いた。このときのパートナーは、今回運命を共にしたヴィヤチェスラフ・イワノフだった。

（写真説明）
2009年、ミニヤコンカ山群の未踏峰6134ｍを登攀中のルチキン、後方はミハイロフ。アレクサンドル・ルチキン提供

新連載

「山の日」制定記念
―ふるさとの山に登ろう―
九州地区

子供に登ってもらいたい山、
山岳遺産として残したい山

九州の日本百名山には、久住山、祖母山、阿蘇山、霧島山、開聞岳、宮之浦岳が選ばれている。今回、九州から紹介する山は次の三山に絞った。

久住山（1787m）

大分県の九重火山群は阿蘇火山、霧島火山、雲仙火山と並び有名な火山群の一つである。

九重火山群の最高峰は中岳（1791 m）だが、かつては久住山が九州本土最高峰とされていた。他には大船山（1786 m）など1700 m級の山を八座有している。

親子や幼・小・中・高生の集団登山でよく利用される登山口は牧ノ戸峠だ。牧ノ戸峠から久住山までの登山道はよく整備されている。山頂はごつごつした岩の集合体であり、視界を遮るものがないため素晴らしい展望を堪能できる。

別の登山口として長者原、赤川、沢水、男池などの登山口がある。キャンプ場として有名な坊ガツルキャンプ場から大船山や中岳、久住山への登山も楽しみであり、1700 mには及ばないがミヤマキリシマ群落の見事な開花期には平治岳（1643 m）も登山客で大混雑する。

この山域では、ミヤマキリシマの大群落、コケモモ（国の天然記念物に指定）、イワカガミ、イブキトラノオ群落の開花期も見ものである。灌木帯ではコミネカエデ、ベニドウダン、ナナカマドなどの群落があり、開花期や紅葉期にはとくに人気がある。

霧島

霧島火山群は鹿児島と宮崎県境に連なる。この火山群の主峰が韓国岳（1700 m）である。古事記には空国、虚国嶽とも記載されている。1934年雲仙火山群と共に我が国初の国立公園に指定され、火山博物館とも呼ばれる景観が多数の登山者や観光客に親しまれている。

硫黄山や新燃岳の噴火のため、現在登山が認められているのは大浪池登山口から群青色の水をたたえた神秘的な火口湖の大浪池を経て、韓国岳頂上へ至るコースがある。頂上からの展望も素晴らしい。眼前の直径900 m、深さ300 mという巨大な火口跡も圧巻だ。

また霧島神宮がある高千穂河原から火口の御鉢を経て、高千穂峰（1574 m）への登山も楽しむことができる。高千穂峰は天孫降臨で有名な天の逆鉾が山頂から天に突き出しており、奥ゆかしい伝説を秘めた霧島山系の東の主峰である。

韓国岳の渓流沿いには、世界中でここだけに自生するバラ科のノカイドウは、国の天然記念物に指定されている。6月初旬にはミヤマキリシマ大群落の開花が人々を寄せ付けている。

英彦山（1200m）

九州の山岳信仰の中心である英彦山は福岡と大分県境に位置する。英彦山の中岳（1180 m）頂上に英彦山神社がある。歴史は古く、太陽の神の子の山として日子山と呼ばれていた。832年に嵯峨天皇が彦山と改め、1729年霊元天皇が英彦山と改称せられた。

英彦山信仰の中心となる奉幣殿には、参道入り口の銅の鳥居をくぐり、広い参道の石段を登りつめていく。多くの参拝者や登山者、観光客で賑わっている奉幣殿は740年創建で、彦山山伏で栄えていた頃の大講堂である。朱塗りの壮大な現在の奉幣殿は1616年に幕府の命で小倉藩主の細川忠興公が建立した。

登山コースは、奉幣殿から中宮経由で直接中岳に登るコースや、英彦山北東部の薬師峠から北岳（1192 m）、中岳、南岳（1200 m）を経て、きれいな柱状節理の材木石、英彦山の鬼杉、玉屋神社を見学しながらの縦走もできる。縦走では途中鎖場があり、小さな子供連れなら注意が必要だ。春の新緑とツクシシャクナゲやベニドウダン、夏のブナの原生林、秋の紅葉、冬の霧氷と親子で登山を楽しむことができる。

（文責：長崎県　下田泰義）

平成27年度中高年安全登山指導者講習会（東部地区）開催

平成27年度中高年安全登山指導者講習会・東部地区が9月11日（金）～13日（日）の日程で開催された。従来は9月下旬の開催となっていたが、今年はシルバーウイークの連休と重なるため、早めの時期が設定された。東部地区は東京都山岳連盟の主管、山域はミシュラン三つ星の山「高尾山」で、机上講習と宿泊は東京都教育庁の教育施設である「高尾の森わくわくビレッジ」を利用した。

受講者は青森1、山形1、福島1、茨城2、群馬11、埼玉4、千葉1、東京22、新潟7、長野3、石川2、静岡1、愛知4と1都12県より60名が参加し、講師・スタッフ30名と合わせて90名の大部隊となった。

開催日直前まで、後日「関東・東北豪雨」と命名された大雨が続き、当日の天候と参加者の交通機関も心配されたが、開催期間中は台風一過の好天に恵まれ、予定通りのスケジュールで実施できた。

初日（11日）は開講式の後、講演が3題。講演1（北村憲彦講師）では、「中高年登山の課題について」と題して、中高年登山の現状と、リスク、遭難しやすいケース、課題などについて解説された。また講演2（猪熊隆之講師）からは「山岳気象の基礎と気象遭難」と題し、雲が生成される原理、等圧線と風向の関係から、遭難するパターンまで分かりやすく解説された。講演3（橋本しをり講師）では「登山における怪我と病気」と題して、中高年の病気の特徴、熱中症、蜂刺され、脳血傷害などについて解説された。質疑では蜂刺されへの対処法に関心が高かったが、翌日、実際に蜂に遭遇することになった。

2日目（12日）は観天望気、ナビゲーション、搬送法を課題とした登山実技。「わくわくビレッジ」から日影バス停までバス2台をチャーターして移動。日影沢

搬出法のデモンストレーション

猪熊講師の講義

キャンプ場まで入り、猪熊熊講師による第1回目の観天望気講習を行う。「今日の雲はあまりやる気が無さそうだ」との予報に一安心。1班12人前後で5班に分かれ、5分間の間隔を開けて出発する。

登るコースは道標のないバリエーションコースである城山北東尾根。取り付きは転石伝いに渡渉するが、雨が続いたため増水し、靴を濡らしての渡渉となる。実技講師が水の中に入って手を添えてサポートし、全員無事に渡ることが出来た。北東尾根の数カ所のポイントで地図とコンパス、高度計も併用し、地形を読んで現在位置を同定しながら登る。621mの標高点を過ぎたあたりで道の脇に蜂がいると情報で、間隔を開けて静かに通過する。大きな蜂が4匹ほど地上で活動していた。

正午過ぎに城山山頂に着き、2グループに分けて猪熊講師による観天望気講習を行った。この時間になっても”やる気のある”積乱雲は見受けられず、この日は夕方まで天候が持ちそうだとの予報となった。雲の”やる気”の解説は、受講者に大受けだった。

城山から展望台を経て一丁平に移動し、堤信夫講師より、ザック搬送、ネット搬送などいくつかの搬送法のデモンストレーション主体の講習を行った。

搬送法の講習を行うが、狭い道路でのバスの運行、沢の渡渉、蜂の通過などで時間が取られ、搬送法に割り当てられた時間は45分ほどとなり、参加者からは「もっと時間をかけて欲しかった」との声も聞かれた。

一丁平から一旦下って、急な階段を登って高尾山に到着。この登りと薬王院までの混雑した高尾の観光コースがある意味で核心部。はぐれないよう、シャツの左肩に班ごとに色の異なるリボンを付け、点呼を取り

ながら行動した。

下りは急坂の続く蛇滝コース。途中蛇滝の水行道場の脇を通り蛇滝のバス停手前で迎えのバスを待つ。予定の５時少し前にバスに乗り、わくわくビレッジには５時半過ぎに到着。６時からは食事をしながらの情報交換会で、山の話に花が咲いた。

３日目（13日）は講義と研究協議。講義では金邦夫講師から「奥多摩における遭難の実態」と題して、遭難しやすい場所、遭難救助の体験談などを講義。

研究協議のテーマは「気象遭難」と言うことで、登山行動と同じ班単位での分科会方式で討議し、その結果を発表したが、「グループでの話し合いが良かった」という声が多く聞かれた。

各班の発表後、城所邦夫講師よりの講評が行われ、閉校式となった。

以下は、参加者からの一言（アンケートより）

【講義１】中高年登山者の課題について（北村憲彦）

○最近の山岳遭難について、実数での講習は良く理解出来た。今後の山行について、安全登山のための教育・人づくりは大変参考になりました。

【講義２】山岳気象の基礎と気象遭難

○大変わかりやすく、本来は難しいはずの内容も「やる気が…」の話等で、少し理解が出来た。又、気象に興味が出て、私自身もやる気の有る人になった。

【講義３】登山における病気と怪我

○今まで大きな事故・病気もなく山行きをしてきたが、高年になると疾患をかかえている人達が多く最悪の状況もありえると心しなければと強く感じた。

【講義４】奥多摩における遭難の実態

○実際の山岳遭難の話、非常にためになりました。事故はいつ起きても不思議ではない。山行は、年齢に応じた山行及びグループでの参加、あと事前の準備が特に重要に身にしみて感じました。とてもいい話でした。

【実技】

○読図と観天望気は非常に参考になった。高尾山も楽しく登れ、セルフレスキューも参考になりました。

【研究協議】

○班ごとの気象遭難について、各人の話を聞くことで対応や対策についてとても参考になりました。グループごとの討議機会が１日目からあれば情報交換がもう少しできたと思いました。

（記　瀧本　健）

平成27年度全国高等学校総合体育大会登山大会報告
――男子は修道（広島県）、女子は盛岡第一（岩手県）が優勝――

「風になれ今青春が走り出す」のスローガンのもと、８月７日から10日まで、平成27年度全国高等学校総合体育大会登山大会第59回全国高等学校登山大会（インターハイ）が滋賀県高島市を舞台に開催された。

各都道府県の予選を勝ち抜いた男女それぞれ47チーム（沖縄を除く全都道府県各１校、開催県からは２校出場）が、高島市マキノ高原にテントを張り、比良山地「蛇谷ヶ峰」と、中央分水嶺・高島トレイル（「乗鞍岳」・「大谷山」）の３つの縦走コースで日頃の登山技術を競った。ひところは生徒減から女子チームを組めない県もあり、ここ20年来女子のフルエントリーはなかったが、昨今の登山ブームによる高校山岳部員は増加傾向の影響だろうか、今年度、女子チームが全都道府県から出場した。これはおよそ20年ぶりのことであり、嬉しいことであった。また、大会期間中を通して好天にも恵まれ、日本海と琵琶湖を左右に見ながらの縦走や、日本の原風景とも言える棚田の風景の中で繰り広げられた大会は、勝敗をこえて選手諸君の思い出として刻み込まれ、また友情をも醸成したものと確信している。盛夏、標高が低い中での競技ということで、好天故の熱中症なども懸念され、実際数人の熱中症症状も見られたが、地元役員等による適切な対応で、大事には至らなかった。

インターハイは、１チーム４名が３泊の幕営、３日間の縦走（３コース）を行い、それを安全登山の観点から「体力」「歩行」「装備」「設営撤収」「炊事」「気象」「自然観察」「記録・計画」「救急」「マナー」の11項目に得点化して客観的に審査し、総合点で順位を競う。

大会１日目は、高島市民会館で開会式が行われ、びわこ成蹊スポーツ大学学長の嘉田由紀子氏による「祈りとくらしの水遺産・びわ湖の歴史と環境」と題した講話、登山隊編成に引き続いて、審査が始まり、自然観察、天気図、気象、救急のペーパーテストが行われた。その後、幕営地まで移動して設営審査が開始された。幕営地のマキノ高原は、昭和初期からスキー場として営業されてきた関西でも老舗のスキー場で、ゲレンデは下部に広大な緩斜面が広がり、現在は雪遊びやソリ遊びなどファミリーに人気がある。緩い傾斜地ではあったが、芝生の快適なテント場であった。

８月８日国境スキー場から乗鞍岳を目指すB（女子）隊

８月８日キャンプ場に下山して来たA（男子）隊

２日目は、福井県との県境の国境スキー場をスタートし、乗鞍岳、赤坂山に登り、マキノ高原へと戻るコースを使い、男女同一コースでの終日「チーム行動」（選手４名のみでの行動）で審査が行われた。インターハイの登山大会は、競技化の推進と経費削減、各チームのペースで行動することによるスムーズな運営を検討する中で、これまで一般的であった「隊行動」を主体とした運営から、「チーム行動」を大幅に取り入れる方法へと運営方法が変わりつつある。その意味で一つのテストケースともなった。

３日目は、場所を比良山地に移し、隊行動の形式で行われた。直前にスタート地点のトイレにスズメバチの巣が発見されるというトラブルや、熱中症で緊急対応する場面もあったものの、全体としてはスムーズな

	団体男子	得点	団体女子	得点
優勝	修道（広島県）	97.9	盛岡第一（岩手県）	98.8
2位	長崎北陽台（長崎県）	97.3	長田（兵庫県）	98.4
3位	秋田南（秋田県）	97.2	五日市（広島県）	98.0
4位	土佐（高知県）	97.0	大村（長崎県）	97.9
5位	神戸（三重県）	96.9	千葉東（千葉県）	97.9
6位	仙台三桜（宮城県）	96.8	城ノ内（徳島県）	97.8
女子の４位５位は大会規定による。				

競技進行であった。

登山行動最終日にあたる４日目は、標高500ｍのビラデスト今津から高島トレイルを辿って、大谷山に登り、幕営地へと下った。この日は、前半を「チーム行動」、後半はそれぞれのチームごと監督と合流しての「パーティ行動」という形式で行動した。琵琶湖を見下ろすスタート地点から快適な縦走となり、さわやかな風が吹く中、右手に琵琶湖、左手に若狭湾を見下ろしながら、監督も含めて和気藹々と登山を楽しんだ。

最終結果は、前頁の通り男子が修道高校（広島県）、女子は盛岡第一高校（岩手県）がそれぞれ優勝した。最後に、地元滋賀県の実行委員会はじめ関係された多くのみなさんに感謝申し上げ、報告といたします。

（記　全国高体連登山専門部副部長　大西　浩）

第39回自然保護委員総会（山岳自然保護の集い・福島大会）報告

９月12日から13日の２日間、「国立磐梯青少年交流の家」にて、26加盟団体から110名の参加を得て、福島県山岳連盟主管のもと第39回総会を開催した。

１泊２日の日程で開催したこの総会を「山岳自然の集い　福島県大会」サブタイトルに、テーマを「いわはしやま（会津磐梯山）の自然保護と火山防災に学ぶ」とし、通常議事に加え、磐梯山にまつわる基調講演と実際の現地の様子を見聞し、火山と自然を考える集いとした。

期間中を含め福島県山岳連盟の開催に向けた厚情に感謝します。

第１日目

総会は、尾形好雄日山協副会長を皮切りに、松隈豊日山協自然保護委員長と尾形一幸福島県山岳連盟会長からの挨拶で総会プログラムが始まった。

この挨拶の中で尾形日山協副会長は次のように述べた。「今年の５月の定期総会で八木原会長をトップに新体制がスタートしました。公益法人化から３年目を経ましたが、定款の目的を行うため登山と山岳スポーツの両輪をパラレルで運営していくと公言致している。これを円滑に致すため各種上部団体に加盟をいたして進めているところです。そして競技団体としてミッションを背負っております。スポーツクライミングの競技種目としての脚光を浴びるようになり、競技団体としての色合いが益々強くなってきている。一方、登山の分野では中高年の時代は過ぎ、今や若返りが見られるところですが、その多くは未組織登山者となってきており、以前と登山の様相が違ってきている。受け皿としての日山協の責務が不可欠とも考えます。「山の日」の祝日が制定されたことをチャンスと捉え、総会に出席の各位においては、山の自然の楽しさに加えその大切さを次の世代に伝えていくよう精励されることを期待する。また、地球規模の環境が劣化の一途を辿っていることに対し、その歯止めを配慮する環境保護について検討を進められるよう期待します。この大会が実り多い総会になりますよう祈念し、福島岳連の皆さまに感謝申しあげる。」

引き続いて行われた基調講演では、佐藤 公 磐梯山噴火記念館副館長を演者に「磐梯山の噴火とジオパーク」との演題で１時間ほどの講演が行われた。概要は次に通り。

「火山とは第四紀（約260万年前から現在までの期間）に噴火したことのある山。概ね過去１万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山を活火山。国内には活火山の数は現在110座、常時観測の火山は50座ある。日本で最も火山が多いのは、伊豆諸島・小笠原諸島へと延びる火山群を擁する東京都であることも注目したい。」と前置きし、次のように解説を続けた。

「磐梯山は1888年の噴火による山体崩壊で生じた岩屑雪崩（がんせつなだれ）が北麓に流れ下り長瀬川を埋没

議事を終えて

主催者あいさつの尾形日山協副会長

させ、重大な自然災害を招いた。この噴火により麓の湖沼群が形成され、現在では美しい景観を我々に与えてくれている。2000年に火山活動が活発になり入山規制等が行われたが、結果的には噴火には至らなかった。これを機に、防災マップが作成されるなど、火山防災の面では前進が見られた。」と述べた。

引き続き行われた総会議事では、平成26－27年度事業報告、平成27年度事業計画、継続中の活動、27年度指導員登録状況について報告が、次いで参加26団体のそれぞれから活動状況の発表が、次いで大会テーマの説明が行われた。議事の詳細については日本山岳協会ホームページを参照願います。

夕食後、一段落して懇親会が和気藹々と行われ、談笑に交流に時間を忘れるほどであった。

第２日目

明けて、13日（日）は磐梯山登山と五色沼周遊の２コースの11班に分かれ、福島岳連30名ほどのサポートを受けてのエキスカーションを行った。磐梯山登山コースでは、八方台口登山口から磐梯山山頂までの往復であったが、途中のブナ林の美林や始まりかけた紅葉に自然を堪能した。下山後、檜原湖そばにある磐梯山噴火記念館を見学した後、散会となった。五色沼周遊コースでは、五色沼探勝路（裏磐梯ビジターセンター～磐梯高原駅）、磐梯山噴火記念館、野口英世記念館を、福島岳連のスタッフの解説を受けながら巡った。

（自然保護委員長　松隈　豊）

JMA

平成27年度９月（27年９月）
常務理事会・連絡部会報告

日　時：平成27年９月17日㈭
18時～21時
場　所：岸記念体育会館103会議室
出席者：八木原会長、尾形・國松・髙橋・亀山各副会長、小野寺、仙石、森下、瀧本、中瀬各常務理事、中畠監事、増山・相良理事、松隈・澤田・西原・小日向各委員長
委　任：京オ・西内・水島常務理事、山本・角田委員長（21名中16名出席）

１．議　事

⑴平成27年度８月常務理事会議事録の承認について（事前送付済）
事前に送付しており異議なく承認された。

⑵平成27年度「少年少女登山教室」交付申請の承認について
８月以降に申請のあった香川県岳連１件の交付が承認された。

⑶平成27年度専門委員会常任委員候補者の承認について
前回８月常務理事会以降進展なし、前回のままで決定したい。
異議なく承認された。尚、次年度より専門委員会常任委員の推薦は４月中にすることを申し合わせた。

⑷ＩＦＳＣクライミングＷ－ｃｕｐ加須大会2016の開催について
尾形副会長から資料に基づいて事業計画の説明があり、2016年の開催と競技実行委員長に小日向選手強化委員長を当てる事が承認された。

⑸平成27度日本選手権及びユースリード日本選手権大会について
森下競技部長より３月のユースリード日本選手権を日本選手権／ユースリード日本選手権にしたいとの提案があり、了承された。

⑹第２回ルート・セッター研修会（12月末）の企画について
森下競技部長より、12月の高校選抜クライミング選手権のルート復旧時にルート・セッター研修会を行いたいと提案があり、了承された。

⑺報告事項

ア　会計月次報告
相良財政委員長より資料に基づき８月末現在の会計報告があった。

イ　役員研修会議事録
役員研修会に出席された理事には既に配布しており、異議がなかったが、小野寺事務局長から再度要点のみの報告があった。

ウ　和歌山国体の準備について
西原競技運営委員長から和歌山国体の進捗状況が報告された。

エ　平成27年度中高年安全登山指導者講習会（東部地区）について
瀧本常務理事から、大雨で心配したが、この期間だけ晴れて無事終了した、との報告があった。

オ　第54回全日本登山体育大会について
仙石登山副部長から報告があった。現在217名の参加申し込みがあり、10回参加の表彰推薦者も３名届いている。

カ　ネパール大地震救援募金委員会報告
小野寺事務局長から資料に基づいて第一次贈呈等の報告があった。

キ　第２回日本インカレ結果と御礼
小野寺事務局長から資料に基づいて報告があった。

ク　東京五輪2020追加種目について
尾形副会長から報告があった。９／７のＪＯＣ理事会の結果が共同通信から流れ、９/11の新聞報道発表に繋がった。９/15に追加種目検討会議が行われ、東京五輪組織委員会に答申され、９/28に発表となる。ＩＦＳＣからはマスコミ報道に一喜一憂しないように言われている。
小日向選手強化委員長からは、ＩＦＳＣでは８月の役員会で東京のヒヤリングについて報告した。ＩＦＳＣはワールドゲームズ・カリ大会や南京でのユースオリンピックに選手を派遣しなかったＪＭＡに不信感を持っており、今回失敗した場合は日本のせいだと言われる恐れがある。ＪＭＡはＮＦとしての姿勢が問われている。と報告がった。

ケ　ＢＷＣ加須大会・第一回実行委員会報告
森下競技部長より資料に基づき実行委員会の報告がなされた。

コ　審判・セッター資格登録・更新台帳データの扱いについて
森下競技部長より、データ管理が不備であった。９／５の会合で事務局・中川が10/末までにデータを各岳連に通知する。900名の登録者がいるが今は関わっていない人が半数以上である。確かに岳連からの申請がなかったこともあり、岳連の方でも確認してもらう。などの報告があった。

サ　日体協・第70回和歌山国体概要記者会見
森下競技部長より記者会見の報告。原・日体協国体部長の趣旨説明の後、会見が始まり、ボウリング、ソフトボール、空手道に比べ特にＳＣの人気が高く、出席した杉本選手会長の周りを８社のマスコミが取り囲み関心の高さを伺わせた。

シ　ＩＦＳＣ審判・セッター講習会について
小日向選手強化委員長より日本には国際資格を持つ審判が１人もいない。これは問題視されている。アジアには38人いる。27年度事業計画で日本開催を考えていたが12月～１月にインドである講習会に特別枠をもらって参加する予定である。と報告。

ス　ＷＣ・世界ユース選手権報告
小日向選手強化委員長より、日本は国別ランキングで１位であるが、競争が厳しく維持が大変である。男子は決勝には残れなかった。大人のミュンヘン大会はかなり厳しかった。アルコの世界ユース・ボルダリング

は金１つ、銀２つであったがリードは銅２つで厳しかった。勝負強さがなく、決勝に残ってもなかなかメダルが取れない、アメリカが手ごわくなってきている。と報告

セ　日本スポーツクライミングカウンシルについて
小日向選手強化委員長より、ＳＣはまだ国内的には認知度が低いので選手強化委員会から依頼してネットに掲載してもらっている。非公式依頼であったが、今現在出来ることから行っている。と報告。

ソ　競技部ブロック研修会について
アンチドーピングの研修会を３ブロックで開催した。

タ　オリンピックプロジェクトからの報告（前出のため省く。）

チ　第６回全国高等学校選抜クライミング選手権大会について
中瀬常務理事より資料に基づき、開催要項の説明があった。今大会からヨネックススポーツ振興財団から助成金が交付される事になった。

２．後援報告、協賛等の依頼について

⑴日本山岳耐久レース後援名義承認
→承認

⑵第16回ライチョウ会議静岡大会名義後援名義承認　→承認

⑶第30回かながわ県民登山（ハイク）後援名義承認　→承認

⑷スポーツクライミングアウトドアヴィレッジカップ2015
後援名義承認　→新規・承認

上記⑴～⑶は継続であり、自動承認、⑷については新規であり、により、資料に基づいて提案があり、了承された。主管は都岳連。

３．報　告

⑴ＳＣ上級指導員中央開催（兵庫県岳連主管）
実施：７／３－５（神戸登山研修所）
認定：９／７　指導委員会
受講者：５名、合格者４名：安達直浩、北岡和義、高本真成、佐藤建
以上の承認をお願いします。
７月の東京開催の判定は、採点に時間がかかっており、次回に回す。
提案通り承認された。

４．日誌（８月28日～９月16日）

⑴「神﨑忠男氏を労う会」　８月28日㈮　於：京王プラザホテル新宿　八木原会長ほか

⑵役員研修会　８月29日㈯～30日㈰　於：東京海員会館　八木原会長ほか26名

⑶カンボジア・ユースクライマー表敬訪問　８月31日㈪　於：スポーツマンクラブ　尾形副会長、小野寺常務理事

⑷電通打合せ　９月１日㈫　於：日山協事務局　尾形副会長、小野寺常務理事、中川事務局員

⑸日本体育協会評議員連合会総会
９月３日㈭　於：岸記念体育会館　尾形副会長

⑹第70回和歌山国体組み合わせ抽選会　９月６日㈰　於：岸記念体育会館　八木原会長、尾形副会長、森下常務理事、西原・山本委員長

⑺日体協打合せ　９月９日㈬　於：岸記念体育会館　小野寺事務局長、瀧本指導委員長

⑻ＡＤＫ打合せ　９月９日㈬
於：スポーツマンクラブ　尾形副会長、小野寺事務局長

⑼博報堂打合せ　９月10日㈭　於：赤坂Ｂｉｚタワー　尾形副会長、小野寺・森下常務理事、中川事務局員

⑽平成27年度中高年安全登山指導者講習会（東部地区）　９月11日㈮～９月13日㈰　於：高尾山周辺　八木原会長、仙石登山副部長

⑾山岳レスキュー講習会（西部地区）
９月11日㈮～９月13日㈰　於：国立登山研修所　西内登山部長、町田常任委員、渡辺常任委員

⑿第39回自然保護委員会総会
９月12日㈯～13日㈰　於：福島・国立磐梯青少年交流の家　尾形副会長、松隈委員長

⒀ネパール大地震救援募金委員会
９月15日㈫　於：日山協事務局
尾形副会長、小野寺事務局長

⒁第70回和歌山国体概要記者発表
９月16日㈬　於：岸記念体育会館
尾形副会長、森下競技部長、安井委員、杉本怜選手

寄贈図書

寄贈本	山と渓谷社	書籍「冒険歌手 峰 恵子」
	山と渓谷社	「首都圏100kmトレイル①「詳しい地図で迷わず歩く！奥武蔵・秩父354km」」佐々木亨 著
	山と渓谷社	「山の不思議事件簿」上村信太郎 著
雑誌	山と渓谷社	「ROCK&SNOW」069
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」№820 2015 10月
	山と渓谷社	「山と渓谷」№966 2015 10月
	山と渓谷社	「TRAIL RUN」2015
会報	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」2015 9 №449
	日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」vol48
	(公財)日本体育協会	「体協ニュース・フェアプレイニュース」8月31日号
	横浜山岳会	「月刊 山」999号
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBCニュース」第526号
	埼玉県体育協会	「スポーツ埼玉」Vol.269
	中華民国山岳協会	「中華山岳」248
	(株)スクールパートナーズ	「高校生新聞・高校生スポーツ」9月号
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」№311
	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」Vol.21　2105 09-10
	明治大学炉辺会	「炉辺通信」№178
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報 」№488
	群馬県山岳連盟	「山岳ぐんま」第105号
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第320号
	長野県山岳協会	「やまなみ」№218
	Krean Alpino Federation	「大山聯」Vol.201　2015 September
	(公財)日本体育協会	「体協ニュース・フェアプレイニュース」9月14日号
	東京野歩路会	「山嶺」№1027
	(公社)日本山岳会	「山 」№844
	日本ヒマラヤ協会	「ヒマラヤ」№474
	おいらく山岳会	「山行手帖」№670
	La rivista del Ciub alpino italiano	「Montagne 360」
	(一財)福岡コンベンションセンター	「FCC news」52

編集後記

スポーツクライミングが2020東京オリンピック追加種目に推薦された。大変光栄であり組織つくりが急務の課題だ。選手強化・育成はメダル獲得において重要で、クライミングジムとの良好・緊密公正な関係が必要では。

（広報担当　水島彰治）

NPO法人 北丹沢山岳センター
事務局　〒252－0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545－1
TEL 042-687－4011　FAX 042-687－3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
蛭ケ岳山荘　TEL：090－2252－3203（衛星電話）
神の川ヒュッテ　TEL：042－787－2276
和田峠「峠の茶屋」　TEL：042－687－2882
ユーシンロッジ保全管理　TEL：042－687－4011
理事長・代表　杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター
神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会
事務局　〒252－0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545－1
TEL 042-687－4011　FAX 042-687－3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
◦北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
◦陣馬山トレイルレース実行委員会
◦八重山トレイルレース実行委員会
◦東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
◦上野原秋山トレイルレース実行委員会
◦陣馬高尾ムーンナイトトレイルレース実行委員会
◦峰山トレイルレース実行委員会
大会々長　杉本憲昭

登山月報　第 559 号
定　価　110 円（送料別）
予約年間　1,300 円（送料共）
昭和 45 年 12 月 12 日
第三種郵便物認可
（毎月 1 回 15 日発行）
発行日　平成27年10月15日
発行者　東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館内
公益社団法人日本山岳協会
電　話　03 － 3481 － 2396
ＦＡＸ　03 － 3481 － 2395

山岳雑誌

岳人

山と人、
時代をつなぐ
「岳人（がくじん）」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、“岳（やま）”を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

年間購読がおすすめです。

購読割引　送料無料　限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 8,160円（+税）（税込8,812円） → 年間購読12冊 7,480円（+税）（税込8,078円）

1年間で680円 1冊分無料

年間購読特典

年間購読をお申し込みのみなさまにプレゼント!

岳人オリジナル
手ぬぐい & ペーパーナイフ

11月号
10/15発売

「岳人」11月号

【特　集】山と温泉

【好評連載】夢枕 獏「『神々の山嶺』創作ノート」／フリチョフ・ナンセン「グリーンランド初横断」／石川直樹「まれびと」／秘境探訪 ほか

本体価格 680円

★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中！

年間購読お申し込み方法

◉ウェブサイトで
http://www.gakujin.jp

◉お電話で（受付後に振込用紙をお送りします）
0120-982-682 ／ TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

◉全国のモンベルストアで
http://store.montbell.jp

立ちどまらない保険。
MS&AD
三井住友海上

三井住友海上の安心
GK

www.ms-ins.com

JMA
守ります。美しい日本の山。

祝

国民の祝日

山の日

8月11日

（2016年より）

山岳保険は

日本山岳協会 山岳共済会

http://sangakukyousai.com

〒170−0013　東京都豊島区東池袋3−7−11−707
TEL:03-5958-3396　FAX:03-5958-3397
E-mail:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp
月〜金　10:00〜17:00（祝日除く）

Webからも申込めます